



平成 20 年 10 月 20 日
独立行政法人国立科学博物館

小学校教員を目指す文系学生のための理科講座開催について

「明日の先生へおくる 理科のコツ」

独立行政法人国立科学博物館(館長:佐々木 正峰)では、文部科学省「先導的・大学改革推進委託事業*」の一環として、学校現場で自信を持って理科の指導ができる教員を育てるために、モデル的プログラムを試行的に実施する予定です。

本講座の概要

- ①対象: 小学校教員を目指す文系の学生
(来年度小学校教員に内定している方を優先)
- ②目的と内容: 「自信を持って、子どもたちに理科の指導ができる」、「自然界の不思議さに気づき、その感動を子どもたちに伝えられる」、「自然や社会に対して興味・関心を示し、継続的に自ら学ぶ」教員を育てるために、国立科学博物館の資源を利用した、実験や実習など体験的な活動を行います。
- ③開講時期: 平成 20 年 12 月 13 日(土)～12 月 27 日(土)の 8 日間
- ④募集人数: 20 名程度

なお、本件の募集チラシと補足資料を別紙に添付いたします。
学生の募集、広報等についてご配慮いただけますよう、お願い申し上げます。

*平成 20 年度 先導的・大学改革推進委託事業「大学における小学校教員養成課程学生に対する科学的素養を向上させるための外部の教育資源を効果的に活用する教育方法に関する調査研究」

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館 展示・学習部 学習課 学習課長 小川
ボランティア活動・人材育成推進室長 亀井

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL:03-5814-9881 FAX:03-5814-9898

E-mail:menkyo@kahaku.go.jp

<http://www.kahaku.go.jp/>



平成20年度「先導的大学改革推進委託事業」
大学における小学校教員養成課程学生に対する科学的素養を向上させる
ための外部の教育資源を効果的に活用する教育方法に関する調査研究

明日の先生へおくる 理科のコツ

子どもたちをひきつける

「理科」のツボ!?

教材から授業案まで

他教科にも役立つ「先生力」を身に付けよう



○対象：小学校教員をめざす学生

(来年度小学校教員に内定している方、文系の方を優先)

○募集人数：20名程度

○受講料：無料 (本年度は委託事業のため)

(但し、テキスト代及び保険代等の実費として1000円を徴収します)

○会場：国立科学博物館 上野本館及び新宿分館

○日程：

	月日	内容
第1日目	12月13日(土)	オリエンテーション・博物館を有効に使う
第2日目	12月14日(日)	教材の探し方・選び方
第3日目	12月19日(金)	天体観測
第4日目	12月21日(日)	実験・観察の基礎を身につける
第5日目	12月23日(火・祝)	例) デンプン・ヨウ素液・紫キャベツ などを使った実験・観察
第6日目	12月24日(水)	
第7日目	12月26日(金)	模擬授業に挑戦
第8日目	12月27日(土)	まとめ・今後に向けて

・応募多数の場合、来年度から小学校教員に内定している方、文系の方を優先させていただきます。講座内容、日程は一部変更になる場合があります。

*詳細は、科博 HP(<http://www.kahaku.go.jp/learning/university/teacher/index.html>) をご覧下さい。

○募集期間：11月21日(金)まで (申込方法は科博のHPで案内しています)

○問い合わせ先：



国立科学博物館 展示・学習部
学習課 研修係担当

Tel. : 03-5814-9157

E-mail : menkyo@kahaku.go.jp



平成 20 年度「先導的・大学改革推進委託事業」
大学における小学校教員養成課程学生に対する科学的素養を向上させるための
外部の教育資源を効果的に活用する教育方法に関する調査研究

小学校教員を目指す文系学生のための理科講座

「明日の先生へおくる 理科のコツ」

このプログラムで育てたい小学校教員のイメージ：

- 「自信を持って、子どもたちに理科の指導ができる人」
- 「自然界の不思議さに気づき、その感動を子どもたちに伝えられる人」
- 「自然や社会に対して興味・関心を示し、継続的に自ら学ぶことができる人」

プログラムの目的：

小学校教員を目指す学生が、博物館の資源を利用し、実験や実習・見学などの体験的な活動を行うことにより、自信をもって理科を指導するために必要な知識や技能を身に付けるとともに、身近な自然や科学現象を素材として、子どもたちに教えるときに活用する視点を習得することを目的とする。

プログラムの特色：

このプログラムでは、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」における、「何を教えるか」と「どのようにして教えるか」の 2 つの視点の有機的な連携をはかり、科学に対する知識・技術の向上を通して、理科の指導力の向上を目指すこととする。

プログラムの構成：

大学で理科を専攻していない小学校教員養成課程の学生が、

1. 自信をもって、子どもたちに理科の指導ができるために、理科の基礎的な実験・観察として、水溶液に関するヨウ素デンプン反応実験と指示薬作りの実験を重点的に行い、基礎的な理科の知識と実験技能を身に付けること、
 2. 自然界の不思議さに気づき、その感動を子どもたちに伝えられるために、身近な材料を教材として用いた体験的な活動を行い、模擬授業に挑戦することで、表現し伝える能力を身に付けること、
 3. 自然や社会に対して興味・関心を示し、継続的に自ら学ぶことができるために、博物館の活動を深く理解し、外部の学習資源を活用する能力を身に付けること、
- を目指し、8日間の体系的な講座とした。

プログラムの流れ：

